



## はじめに

メタデータ	言語: ja 出版者: 奥野, 久美子 公開日: 2024-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 奥野, 久美子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/0002000252">http://hdl.handle.net/10466/0002000252</a>

## はじめに

大阪公立大学文学研究科では、二〇二二年度に、講談・講談本研究の第一人者にして斯界随一の資料収集家、吉沢英明氏の演芸資料コレクションを一括受贈し、〈吉沢コレクション〉として整備、研究を始めた。コレクションの受け入れ過程については、すでに大阪市立大学都市研究プラザの先端的都市研究拠点二〇二二年度「共同利用・共同研究事業」成果報告ブックレット『上方・大阪都市文化の研究拠点形成—大学アーカイブの整備と発信—』（西田正宏・奥野久美子編 二〇二二年三月刊）で詳細に報告しており、その全文を大阪市立大学学術機関リポジトリにて公開もしている。

吉沢コレクションの整備は二〇二二年度も継続し、本年度は主に二〇二一年度三菱財団法人文学研究助成による助成金を得て整備と研究をすすめた。本冊子は、その成果報告書である。同助成の概要は以下のとおりである（本冊末尾にも記す）。

研究課題名：「講談資料コレクションの調査研究とデジタル整備」

— 講師：初代悟道軒圓玉日記の翻刻校注を出発点として—

研究代表者：奥野 久美子

共同研究者：高橋 圭一 久堀 裕朗 中村 健 武田 悠希

研究期間：二〇二二年三月—二〇二三年二月

本冊では、この研究課題名にも入れた講師悟道軒圓玉の日記『悟道軒日記帳』の翻刻校注を中心とした。この資料は、圓玉の最晩年の日記を清書した筆写資料で、これまで吉沢氏によるごく一部の抄出紹介を除いて世に出たことのない貴重な資料である。今回は一〜六月の半年分を対象とし、後半の翻刻注釈は今後進めていく予定である。

また吉沢コレクションに関して、二〇二二年十一月二十三日「吉沢コレクションと講談の世界」と題する一般公開の研究報告会を行った。その際のプログラムは以下のとおりである。

### 吉沢コレクションと講談の世界

二〇二二年十一月二十三日 於 大阪公立大学杉本キャンパス講堂

司会：西田正宏（大阪公立大学教授）

◎第1部 資料の紹介と展示—吉沢コレクションと文学研究—

吉沢コレクションの受け入れと整備の現状報告・奥野久美子（大阪公立大学教授）

〔講演〕悟道軒圓玉・赤穂義士銘々伝・木村岡右衛門—吉沢コレクションの面白さ—高橋圭一（大阪大谷大学名誉教授）

◎第2部：上方講談の実演

— 現役プロ講師と講談資料コレクション—

旭堂一海：『開口一番』

旭堂南海：赤穂義士銘々傳より『木村岡右衛門』

本冊にはこの報告会での高橋圭一氏の講演内容も、『悟道軒日記帳』にかかわる解題の一部として収録した。

さらに吉沢コレクションの講談本や一枚物（芝居番付、錦絵など）の解題も進めており、それら解題は、すでに大阪公立大学文学研究科特設サイト「新機軸」の展開に向けて」（二〇二二年五月開設）<https://www.lit.osaka-cu.ac.jp/new-departure/>にて資料のカラー画像とともに公開中である。

本冊では、それら公開済みの解題を再録するとともに、新たな解題も加えた（後日、同HPに追加予定）。中村健氏による解題のすべてと、久堀裕朗氏による解題のうち二点（御霊社内文楽座絵番付／新京極パター館活動写真チラシ）が新解題である。

今後も多くの関係者の協力を得て、吉沢コレクションの整備と研究を進めていく予定である。

最後に、二〇二二年三月から二〇二三年二月までの一年間、吉沢コレクションの整備と研究を進めるための主な財源とさせていただいた二〇二二年度三菱財団法人文学研究助成に対し、深く感謝を申し上げます。  
（奥野久美子）